



# 石州街道・出口地区まちづくり協議会

■地区名(所在地)・面積・戸数：  
石州街道・出口地区(広島県府中市出口町)・約3.3ha・130戸

## 1. 団体の概要

- ①団体の種別：任意団体
- ②団体全体の予算：年間約90万円  
施設費1万円、活動費84万円、その他まちなみの維持管理など5万円
- ③外部委託：なし
- ④共有地・共有施設：なし
- ⑤まちなみのルール：石州街道・出口地区まちづくり協定(2004年4月開始)

## 2. 維持管理活動の概要

### 1) まちなみ形成の時期

江戸時代に石見銀山と瀬戸内海の港を結ぶ石州街道の要衝のまちとして形成された。藍や桐、たばこなど農林産物の集積地として商業が盛んになり、集産物を加工する機能が求められるにつれ、繊維、木工、食品などの工業が栄えた。府中市の商業の中心地として、まちなみは江戸から昭和にかけて形成された。

### 2) 活動の開始時期と活動の経緯

商業の中心地が昭和後半に東に移行したことに伴い、まちが衰退し、若者流出や空き家増加などによりまちなみが失われることを危惧した住民有志らが、2001年に「まちづくりを考える会」を結成した。

行政の協力も得ながら2002年、「石州街道・出口地区まちづくり協議会」を設立。まちの将来を考えるワークショップやまち歩きなどを行い、地区の課題や改善方法を検討した。そして、「石州街道・出口地区まちづくり協定」(修景基準)を作成した。

2004年度からは「街なみ環境整備事業」に取り組みはじめ、外観修景、道路整備、公園整備を行い、歴史的なまちなみの保全を行った。

2013年度で街なみ環境整備事業は終了したが、以降も協定を運用することが協議会の総会で承認され、継続運用されることとなった。

### 3) 現在の活動状況

- ①修景相談会を実施し、修景基準を自主的に運用
- ②空き缶の回収、祭り・イベントなどでの収益により活動費を捻出
- ③協議会の高齢化に対応、他団体と連携して活動を展開



森田澄子

- ④空き家活用の取り組み(空き家所有者の紹介、空き家の状況確認など)

### 4) 今後の活動方針

まちの清掃活動などを進めるとともに、地域の魅力を広く発信し、市全体を活性化していくイベントなどを継続的に実施する。また、住み続けながらまちなみの維持管理を行う以下の活動に特に注力していく。

- ①空き家活用事業(出口・ウェルカム・プロジェクト)：  
地元NPO法人による参加型の空き家改修の実績を参考に、空き家所有者との事前交渉、改修の材料費の提供を行い、若者の移住支援をしていく
- ②修景相談会の開催と修景事業の継続のための補助金獲得の検討
- ③地区防災活動(木造建造物の火災予防についての勉強会、高齢者の避難を想定した防災模擬訓練)と消火器庫のカバー製作・点検修理







- ①街なみ環境整備事業による修景事例
- ②街なみ環境整備事業による修景事例
- ③石州街道に沿った川から見た景色
- ④夢ホテル公園
- ⑤木製カーパー製作風景
- ⑥公園づくりのワークショップ
- ⑦夏休み子ども寺子屋事業（火起こし体験）
- ⑧百貨店でまちなみ回顧展
- ⑨空き家を活用した店舗
- ⑩石州街道・出口通りのパンフレット  
(提出図書より一部を抜粋)